

未成年者禁酒法制定ニ關スル建議

酒類釀造用米穀類消費高制限ニ關スル建議

酒類ニ含有スル「アルコホル」量ノ制限ニ關スル建議

禁酒教育ニ關スル建議

榮養研究所設立ニ關スル建議

國民食糧問題ハ國民保健上重要ナル關係ヲ有スルモノニシテ之カ解決ハ食糧品ノ生産額ヲ増加スル等量  
的方面ヨリ進ムト共ニ之カ質的方面トモ云フヘキ榮養ニ關スル各般ノ科學的研究ヨリノ必要ヲ認メ榮養  
研究所ノ設立ヲ計劃シ一九二〇年(大正九年)勅令第四〇七號ヲ以テ同官制ノ公布アリ一九二一年(大正  
十年)研究所ノ竣工ヲ告ケタリ。(詳細ハ榮養研究所要項參照)

### 七、國立公園設置ニ關スル基礎的調査

彼ノ歐米諸國ニ於ケル國立或ハ州立等ノ大公園ノ如ク山岳、河海等天與ノ大自然ヲ保存シ國民ニ般ラシテ  
容易ニ之ニ親マシメ廣ク之ヲ利用セシムル方法ハ物質的生活ノ弊ヲ避ケシメ心身保健上最モ適當ナル施設  
ト認メ一九二二年(大正十一年)度ヨリ之カ基礎的調査ニ着手シ既ニ上高地、白馬山、温泉岳、阿蘇山、日  
光、富士山、大台ヶ原山、磐梯山、霧島山、阿寒湖、小豆島、大山ヲ中心トスル地方十二ヶ所ノ踏査ヲ行  
ヘリ。

### 八、都市保健衛生調査

一九一八年(大正七年)保健衛生調査會ノ決議ニ基キ東京市内月島ニ於テ之カ實地調査ヲナシ傍熟練職工ノ  
生計調査ヲ行ヒタリ尙保健衛生調査會ニ於テハ都市衛生状態ノ改善ニ關スル特別委員ヲ擧ケ引續キ審議中  
ナリ。

### 九、農村保健衛生状態實地調査

一九一八年(大正七年)度以降全國ニ亘リ九ヶ村ノ代表的農村ヲ選定シ本省ヨリ直接職員ヲ派遣シ衣食住ニ  
關スル事項ハ勿論各般ノ事項ニ亘リ實地ニツキ調査ヲ行ヒ一面一九二二年(大正十一年)度ヨリハ各地方廳  
ヲシテ管下ノ代表農村ニツキ本省調査ト同一方針ノ下ニ實地調査ヲ行ハシメタル結果既ニ調査完了セルモ  
ノ一九二四年(大正十三年)十二月現在ニ於テ九十六ヶ村ニ達セリ。

### 一〇、寄生蟲病ノ調査ニ關スル獎勵並ニ「マラリア」病ノ豫防撲滅ニ關スル獎勵

寄生蟲ハ廣ク我農村住民間ニ蔓延シ其ノ健康ヲ障害スルコト甚大ナルヲ以テ之カ調査ヲ進ムルト共ニ「マ  
ラリア」病其ノ他地方病ノ分布害毒等ヲ調査シ寄生蟲病ニ付テハ一九一九年(大正八年)度ヨリ「マラリア」  
病ニ付テハ一九二〇年(大正九年)度ヨリ何レモ道府縣ノ支出セル經費ニ對シ三分ノ一、一九二四年(大正  
十三年)度ヨリハ財政緊縮ノ都合上六分ノ一ノ補助ヲ與ヘ以テ之カ豫防撲滅ヲ獎勵シツ、アリ。(詳細ハ當  
該事項參照)

一、衛生思想普及宣傳

(別項衛生思想ノ普及ニ關スル件參照)

一二、運動競技ノ獎勵其ノ他身體鍛鍊ニ基ク國民體力ノ增進

(別項運動獎勵ニ關スル件參照)

一三、現在及將來ニ於ケル主要ナル方針

保健衛生調査ニ關スル事項中現在及將來ニ於ケル主要ナル事業及計劃ヲ舉クレハ次ノ如シ。

- 一、小兒ノ保健増進特ニ乳兒及幼兒ノ死亡率低減ニ關スル調査並對策
  - 二、花柳病豫防ニ關スル調査及對策
  - 三、國立公園ニ關スル基礎的調査及對策
  - 四、都市保健衛生ニ關スル調査及對策
  - 五、農村保健衛生實地調査及對策特ニ寄生蟲驅除ニ關スル事業
  - 六、運動競技ノ獎勵、榮養ノ改善其ノ他ノ施設ニ依ル國民體力ノ增進並國民體質ノ改善ニ關スル事項
  - 七、衛生思想ノ普及宣傳ニ關スル事項
- 尙ホ本調査會ノ調査審議ヲ終ヘ一定ノ方針ヲ案出シ之ヲ常務ニ移シタルモノニ付テハ夫々各所管課ニ於テ詳述サルヘキヲ以テ茲ニハ之ヲ省略セリ。

# 農 村 衛 生

防疫官 南 崎 雄 七

## 一、農村ノ人口ト其ノ衛生

本邦ニ於ケル農業人口ハ約二六、九四三、〇〇〇人ニシテ總人口ノ四八%ヲ占ム、是等人員ハ直接農業ニ従事スル者及其ノ從屬者、使用人等ニシテ殆ト農村ニ生活ス、此ノ外農業者以外ノ者ニシテ村ニ居住スル者ヲ合スルトキハ村居住者約三五、三八九、〇〇〇人ニシテ總人口ノ六三%ニ相當ス、而シテ本邦ニ於ケル村數ハ一〇、七九五(一九二〇年) (大正九年)ヲ算セリ是等農村地域ニ於ケル保健上ノ施設ハ從來殆ト等閑視セラレ唯僅ニ傳染病豫防上ノ一二施設ヲ見ルノミニシテ特ニ舉クヘキモノ無シ之ヲ都市ノ衛生施設ニ比スルトキハ著シク放任セラレタル狀況ニアリ、然ルニ一九一六年(大正五年)内務省ニ保健衛生調査會ノ設立セラル、ヤ特ニ農村衛生ニ關シ一部門ヲ設ケ是カ調査攻究ヲ試ルト共ニ其ノ改善ノ第一着手トシテ農村ニ於ケル衛生狀態ノ實地調査ヲ開始シ一九一八年(大正七年)以降引續キ實施中タリ、而シテ内務省ハ本調査ニ依リ本邦農村ニ於ケル一般衛生狀態ノ實狀ヲ闡明ニシ進シテ農民ノ健康ヲ毀損スヘキ禍根ノ制遏豫防ニ必要ナル對策ヲ確立セントス。而カモ該調査ハ其ノ規模頗ル大ニシテ調査事項又多岐ニ亘リ之カ完成ニハ尙歲月ヲ要スルヲ以テ今直ニ其ノ

結論ヲ舉クルヲ得サルモ今其ノ調査ノ方法並ニ從來調査ノ成績ヨリ得タル概要ヲ記スレハ左ノ如シ。

## 一、農村衛生實地調査ノ方法

農村衛生實地調査ハ之ヲ内務省ト地方廳ノ二ツニ分ツコトヲ得而シテ其ノ調査方法ハ内務省ノ定メタル一定標準ノ下ニ之ヲ行フモノニシテ内務省ハ先ツ是等ノ調査標準ヲ定ムルニ當リテハ豫メ數ヶ所ノ農村ニ就キ試驗的ニ調査ヲ行ヒ之ニ依リ一定ノ標準ヲ作成シ之ヲ地方衛生當局者ト協議シ一九二一年(大正十年)ヨリ中央、地方相待テ實地調査ニ着手セリ、即チ内務省ノ始メテ調査ニ着手セルハ一九一八年(大正七年)靜岡ノ一農村ニ就キ試驗的ニ行ヒ、次イテ一九一九年(大正八年)山口、福井、秋田ノ三縣下ノ各所農村ニ就キ同様に調査ヲ行ヒ更ニ一九二〇年(大正九年)ニハ愛媛、奈良ノ二縣下ニ於テ各一ヶ村ヲ調査シ以下六ヶ村ニ於ケル調査ノ狀況ニ鑑ミ一定ノ調査標準ト調査指針トヲ作成セリ、夫レヨリ一九二一年(大正十年)以後ハ中央、地方共ニ此ノ同一調査標準ニ基キ調査ヲ續行シ來リ内務省ニテハ一九二一年(大正十年)ニハ佐賀、島根ノ二縣下ニ於テ各一ヶ村一九二二年(大正十一年)ニハ群馬ノ一ヶ村ニ就キ調査ヲ行ヘリ即チ内務省ハ直接總計九ヶ農村ヲ調査セルモノニシテ略ホ日本全國各地方毎ニ普及的ニ行ヘリ地方廳ハコノ中央ノ行ヒタル調査ニ準シ各地方ニ道三府四十三縣何レモ一九二一年(大正十年)以降毎年一ヶ村以上ヲ調査シ一九二四年(大正十三年)迄ニ調査シ得タル地方ノ調査農村數ハ計九十六ヶ村ニ達ス、而シテ内務省ハ是等地方廳ニ於ケル農村調査ニ際

シテハ之カ指導員ノ派遣、調査小票ノ供給、調査後ノ統計表作製等ヲ行ヒ以テ此ノ大調査ノ協同聯絡ヲ保テ統計表ハ復表トシテ内務省ニ存置シ全國的農村調査成績ノ總計ノ資料ト爲セリ、今内務省ノ定メタル調査要項及統計表ヲ記スレハ左ノ如シ。

## 農村衛生實地調査要項

- 第一、總論農村一般の觀察
- 第二、人口及戶數
- 第三、生産死産及死亡
- 第四、妊産育兒ノ狀況
- 第五、住民ノ體格
- 第六、寄生蟲、原蟲其ノ他ノ地方病
- 第七、住民ノ疾病
- 第八、飲食物
- 第九、飲酒及喫煙
- 第一〇、飲料水

第一、住宅  
第二、結論

附、住民生活費調査、寄生蟲驅除

農村衛生實地調査統計表

- 第一表 體性及字ニ依リ分チタル戸數及人口
- 第二表 體性及年齡ニ依リ分チタル現在人口
- 第三表 體性ニ依リ分チタル本籍人口、常住人口及入寄留出寄留
- 第四表 體性年齡及配偶ノ有無ニ依リ分チタル人口
- 第五表 體性ニ依リ分チタル常住人口及生産死産死亡
- 第六表 體性及公生私生ニ依リ分チタル生産
- 第七表 體性及月ニ依リ分チタル生産
- 第八表 體性及公生、私生ニ依リ分チタル死産
- 第九表 體性、公生、私生及懷孕月數ニ依リ分チタル死産
- 第一〇表 體性及月ニ依リ分チタル死産

- 第一一表 一年平均一日ノ死亡千ニ付各月平均一日ノ死亡
- 第一二表 體性原因及年齡ニ依リ分チタル死亡
- 第一三表 體性原因及月ニ依リ分チタル小兒死亡
- 第一四表 乳兒期榮養方法ニ依リ分チタル小兒
- 第一五表 體性及離乳期ニ依リ分チタル小兒
- 第一六表 體性及年齡ニ依リ分チタル體重、身長、胸圍、頭圍
- 第一七表 體性及年齡ニ依リ分チタル身長一寸ニ對スル體重
- 第一八表 體性及年齡ニ依リ分チタル身長百ニ對スル胸圍
- 第一九表 體性、年齡及體重ニ依リ分チタル人口
- 第二〇表 體性年齡及身長ニ依リ分チタル人口
- 第二一表 體格ノ等位ニ依リ分チタル壯丁検査
- 第二二表 體性及年齡ニ依リ分ケタル寄生蟲卵保有者及非保有者
- 第二三表 體性及年齡ニ依リ分チタル寄生蟲卵保有者
- 第二四表 體性及字ニ依リ分チタル寄生蟲卵保有者及非保有者
- 第二五表 體性及職業ニ依リ分チタル寄生蟲卵保有者及非保有者

- 第二六表 體性、年齢及寄生蟲卵保有者非保有者ニ依リ分チタル體重、身長、胸圍
- 第二七表 體性及年齢ニ依リ分チタル疾病
- 第二八表 體性及年齢ニ依リ分チタル結核患者
- 第二九表 體性、年齢及職業ニ依リ分チタル結核患者
- 第三〇表 體性及年齢ニ依リ分チタル「トラホーム」患者
- 第三一表 體性及年齢ニ依リ分チタル有齲齒者
- 第三二表 體性、年齢及上顎、下顎、並齒牙ノ種類ニ依リ分チタル齲齒數
- 第三三表 體性及傳染病ニ依リ分チタル患者及死者
- 第三四表 體性及年齢ニ依リ分チタル飲酒及喫煙者
- 第三五表 世帯ニ依リ分チタル主食物消費高
- 第三六表 字及飲料ノ適、不適 檢出物質ニ依リ分チタル井戸
- 第三七表 字及檢出物質中「コロール」ト有機質トノ關係ニ依リ分チタル井戸
- 第三八表 世帯人員ニ依リ分チタル世帯數
- 第三九表 建坪及世帯人員ニ依リ分チタル住宅數
- 調査ニ際シ使用セル調査小票ハ左記七種ヨリ成ル。

- 第一票 死亡原因、生産、及死産ニ關スル調査票
- 第二票 衣食住ニ關スル調査票
- 第三票 大人ノ身體檢査ニ關スル調査票
- 第四票 小兒ノ體格檢査ニ關スル調査票
- 第五票 水質檢査ニ關スル調査票
- 第六票 寄生蟲檢査及驅蟲ニ關スル調査票
- 第七票 一家族食糧調査票

第 號

生産、死産、死亡原因ニ關スル調査票

内務省衛生局

調査者氏名

大正 年 月 日 調査

月 明治 大正 大正 大正 大正 大正 大正 大正 大正 大正 大正	月主或ハ姓名 世帯主	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
	家族												
	人												
	住所												
	府												
	縣												
	郡												
	村大字												

第 號

衣食住ニ關スル調査票

内務省衛生局

調査者氏名

大正 年 月 日 調査

月主或ハ姓名 世帯主	住所	府	縣	郡	村大字
1. 住所ニ關スル事項 良 中 不良					
家屋の方向	平屋建	二階建	葺坪		
家屋の構造	建坪	坪	宅地	坪	空地
坪數	疊 人				
住居人數					
換氣	良	中	不良		
採光	良	中	不良		
汚水、雨水ノ排除ノ狀況	良	中	不良		
家賃	無	シ	有	月額	圓 錢
2. 宅地ニ關スル事項					
平坦、山地、低地、丘陵、海濱、河岸			乾燥、濕潤		
其他					
3. 飲料水ニ關スル事項					
水道、井水、河水、溪水、其他					
井戸ノ構造	井桁	井壁	掘抜		
	水深	尺	水面迄ノ深サ	尺	
其他	屋根 (有、無)	蓋 (有、無)	屋内、屋外		
	便所トノ距離	尺	厩トノ距離	尺	肥料溜トノ距離
汚水溜トノ距離 尺					
4. 飲食物ニ關スル事項					
主食	米飯、米麥飯	米麥	分	其他	分
(食事ノ度數一日)	度	一ヶ月ノ使用量	米	石	斗
味噌	買入	豆	石	斗	升
		麥	石	斗	升
油	自家醸造	豆	石	斗	升
		麥	石	斗	升
副食物ニ要スル費用一ヶ月 魚鳥獸肉 圓 錢					
酒精飲料消費量 (一ヶ月) 石 斗 升 (一ヶ年) 石 斗 升					
其他 餅 (一ヶ年) 石 斗 升					
5. 衣服ニ關スル事項					
着衣枚數	冬季	成人	枚	洗濯度數 (夏季)	(冬季)
入浴回數 (一ヶ月)	夏季	冬季			
手拭	各自	共用	洗面器	個	
醫師藥禮 (一ヶ年)	圓	錢	賣藥 (一ヶ年)	圓	錢

(本票ハ必ク記入心得テ参照シテ記入スルコト)

備考

第 號

小兒體格ニ關スル調査票 内務省衛生局  
(零歳ヨリ十五歳迄用) 大正 年 月 日調査

調査者氏名

戸主或ハ姓名 世帯主		家族	人	住所	府	縣	郡	村大字						
1	姓名				男	女	第	子						
2	身分	公 生		私 生										
3	生年月日	年 月		日生 歳		ヶ月								
4	養育ノ場所	生 家	養 家	里 子	育 兒	院								
5	職業	家計ノ主ナル職業												
		本人ノ職業												
6	頭 圍	尺 寸 分		縱徑	種	横徑 種								
7	齒 牙	上 顎	大 小 小 小	犬 門 門	門 門 犬	小 小 小	大 大 大	大 大 大						
		下 顎	大 大 小 小	犬 門 門	門 門 犬	小 小 小	大 大 大	大 大 大						
8	體 重	貫 匁												
9	身 長	尺 寸 分												
10	胸 圍	周圍 尺 寸 分		縱徑	種	横徑 種								
11	乳兒期營養方法	飲用月數	生後1ヶ月	同2ヶ月	同3ヶ月	同4ヶ月	同5ヶ月	同6ヶ月	同7ヶ月	同8ヶ月	同9ヶ月	同10ヶ月	同11ヶ月	同12ヶ月
		母乳												
		母乳												
		牛乳												
		煉乳												
其他														
12	離乳期	生後 年 ヶ月												
13	既往ノ著シキ疾													
14	父母ノ職業	父ノ職業			母ノ職業									
15	兩親ノ生活程度	上		中		下								
16	實母ノ年齢	父 年		母 年			年							
17	榮養狀態	良		中		不良								
18	熟産早産	熟 産		早産		ヶ月								
19	疾病	寄生蟲病	十二指腸蟲	蛔 蟲	鞭 蟲	東洋毛様線蟲								
		病 名												
20	遺傳及素質關係	A	B	P	S	T	酒量	父 常用 合時々 合無 不明						
									母 常用 合時々 合無 不明					

(本票ハ必ず記入心得ヲ参照シテ記入スルコト)

二二五

備考

第 號

體格ニ關スル調査表 内務省衛生局  
(十五歳以上用) 大正 年 月 日調査

調査者氏名

戸主或ハ姓名 世帯主		家族	人	住所	府	縣	郡	村大字	
1	姓名								
2	體 性	男			女				
3	戸主との續柄				配偶關係	有	無		
4	年 齡	年 月		生 歳		歳			
5	職業	家計ノ主ナル職業							
		本人ノ職業							
6	體 重	貫 匁							
7	頭 圍	尺 寸 分		縱徑	種	横徑 種			
8	身 長	尺 寸 分							
9	胸 圍	尺 寸 分		縱徑	種	横徑 種			
10	齶 齒	上 顎					下 顎		
11	健 否	優 中 弱							
12	疾 病	寄生蟲病	十二指腸蟲	蛔 蟲	鞭 蟲	東洋毛様線蟲			其 他
		T.B							
		V							
		A							
		P							
トラホーム									
其他									
13	不具癩疾								
14	既往ノ著シキ疾患								
15	飲 酒	常用	合	時々	合	不 飲			
16	喫 煙	喫		不 喫					
17	妊 孕 回 散	同 現存		人 死亡		人			
18	死 流産回數	同 流産		同 死産		同			

(本票ハ必ず記入心得ヲ参照シテ記入スルコト)

二二四

備考

第 號 水質ニ關スル調査票 内務省衛生局  
 調査者氏名 大正 年 月 日調査

住 所	府 縣	郡	村大字
戸主或ハ 世帯主姓名			
井戸ノ構造	上	中	下
附近ノ状況	便 所ヨリ 肥料溜ヨリ	尺、 厩 ヨリ 尺、 汚水溜ヨリ	尺 尺
試 驗 成 績	外 觀		
	臭 味		
	反 應		
	硝 酸		
	硫 酸		
	亞 硝 酸		
	アンモニア		
	ク ロ ー ル		
	有 機 酸 (過マンガン酸 カリウム溶液)		
硬 度			
飲料適否			
備 考			

「リットル」中「ミリグラム」量ヲ示ス

第 號

驅蟲ニ關スル調査票 内務省衛生局  
 調査者氏名 (第 回驅蟲) 大正 年 月 日調査

姓名	世帯主姓名	既往症	年 月 日 生 誕	府 縣	郡	村大字	號
	性別						
檢 便	十二指腸蟲	現在症	不快症狀	備 考			
	蛔 蟲						
驅蟲劑及下劑	東洋毛様線蟲						
	鞭 蟲						
月 日							
月 日							
月 日							

(第 號)

食糧ニ關スル調査票

大正 年 月 日 調査

二二八

一族家一			日別品目	住所	戶主或世帯主姓名																
日	月	日																			
日	月	日	日	月	日	縣	府	郡	村大字	家族人員計	男	女	五十五以上	男	女	六十五以上迄	男	女	六歲迄	男	女
			麥	米	麥	米															
			升	升	升	升															
			合	合	合	合															
			勺	勺	勺	勺															

日使用食糧

日		月		日		月		日		月	

(備考)

一家族一日使用食糧欄記入ニ際シ來客等アリタル時又ハ家族ノ者ニシテ不在ナルモノハ其旨記載ノコト  
 副食物ハ其ノ數量又ハ價格ヲ記載スルコト  
 例ヘハ豆腐一丁(價格 錢)人參(大)(中)(小)一本等ノ如シ

二二九

### 三、調査班ノ組織

農村衛生調査ノ實施ニ際シテハ中央地方共ニ適宜純農村ヲ選定シ一定期間調査班ヲ當該農村ニ滞在セシメ村民ト起居ヲ共ニシ其ノ觀察ニ便ナラシム調査期間ハ人口ノ多寡ニ依リ異ナルモ普通ニ二ヶ月乃至四ヶ月ヲ要ス一調査班ノ組織ハ通常左ノ如キモノヨリナル。

- 調査主任 醫師タル技術官 一名
- 調査員 醫師タル職員 三―六名
- 藥劑師タル職員 二―三名
- 助手 書記又ハ事務員 三―五名
- 小使人夫看護婦 三―五名

調査主仕ハ調査上ノ責任ヲ負ヒ調査ニ關スル各般ノ事務ニ當ルト共ニ兼テ調査ニ從事スルモノトス醫師タル調査員ハ村民ノ身體検査、疾病調査及村民住宅、衣服、食食物等ノ調査ニ從事シ中一名ハ人體寄生蟲ニ關スル糞便検査ニ從事ス、藥劑師タル調査員ハ専ラ農村ニ於ケル飲料水ノ水質検査ニ從フモノナリ助手ハ以上調査員ヲ補佐スルト共ニ技術ニ關セサル調査事項ノ調査ニ從事ス。

### 四、本邦農村衛生ノ現狀

内務省ニテ直接施行セラレタルモノニ就キ其ノ概略ヲ見ルニ左ノ如シ

#### 第一 乳兒死亡

本邦ニ於ケル乳兒死亡ハ都市ハ勿論農村地方又相當高率ナリ、最モ高キハ生産千ニ付二〇〇ニ達スルモノアリ普通ハ生産千ニ付一五〇―一七〇ヲ示ス本邦農村ニ於ケル乳兒死亡ハ之ヲ地理上ヨリ見ルニ東北地方ニ高ク南方溫暖ノ地方ニ至ルニ從ヒ低率ナリ死因ノ重ナルモノハ先天性弱質、發育不全、氣管支疾患、肺炎、下痢及腸炎多數ヲ占メ就中氣管支及腸ノ疾患ニ依ルモノ殊ニ多シ。

#### 第二 疾病ト死亡原因

農村住民一八、六八六八ニ就キ醫師ノ身體検査ノ結果ニ依リ得タル疾病ノ種類ヲ記スレハ左表ノ如シ。(寄生蟲病ヲ除ク)

病名	男	女	計	疾病百ニ付百分比
トヲホーム	八六九	九八五	一、八五四	一一・〇
扁桃腺炎及扁桃腺肥大	五五五	六九三	一、二四八	七・四
頸部淋巴腺腫大	四七三	四〇三	八七六	五・二
結膜 炎	四〇八	三九八	八〇六	四・八
				一三・一

胃腸病	二二六	一八二	四一八	二二五
其ノ他血行器ノ疾患	一九三	二〇八	四〇一	二〇四
其ノ他呼吸器疾患	一五七	一六三	三二〇	一九九
氣管支炎	一六五	一五一	三一六	一九九
其ノ他ノ眼疾患	一二六	九四	二二〇	一三三
高度ノ貧血	一〇四	一〇一	二〇五	一三二
肺結核	九五	一一〇	二〇五	一三三
角膜翳	八五	一〇九	一九四	一三二
其ノ他ノ消化器疾患	一二〇	五五	一七五	一〇〇
其ノ他ノ口腔及咽頭ノ疾患	一〇二	六一	一六三	一〇〇
皮膚ノ疾患	九九	六二	一六一	一〇〇
泌尿器及生殖器ノ疾患	二四	一三三	一四七	〇九
花柳病	九四	五〇	一四四	〇九
其ノ他ノ神経系ノ疾患	五六	八七	一四三	〇九
其他ノ疾患	六五	六一	一二六	〇八

一三三

其ノ他ノ全身病及異狀體質	四四	七二	一一六	〇七
中耳炎	六二	三六	九八	〇六
其ノ他ノ耳ノ疾患	四九	四四	九三	〇六
リウマチス	三五	五八	九三	〇六
其ノ他ノ畸形	五七	三四	九一	〇五
運動器ノ疾患	三八	三三	七一	〇四
精神病	三四	二七	六一	〇四
神經病	二三	三三	五六	〇三
其ノ他ノ結核	二五	三〇	五三	〇三
耳漏	二九	二一	五〇	〇三
兩眼盲	一八	一九	三七	〇三
一眼盲	一九	一九	三七	〇三
神經衰弱	二二	一〇	三二	〇二
聾啞	二三	五	一八	〇一
合計	八、二七六	八、五五四	一六、七九〇	一、〇〇〇

一三三

死亡原因

九ヶ村十ヶ年間ノ死亡者四三三七名ニ就キ其ノ死亡原因ヲ調査シタルニ左ノ如シ。

死亡原因

實數

總死亡ニ對スル千分比

下痢及腸炎	四一七	九六・二
肺炎及氣管支肺炎	三四二	七八・七
腦出血及腦軟化	二八四	六五・五
畸形及先天性弱質	二七九	六四・三
肺結核	二六八	六一・八
老衰	二四一	五五・六
腦膜炎	二二九	五二・八
幼兒ニ固有ナル疾患	二一〇	四八・四
不明ノ診斷	二〇〇	四六・一
急性氣管支炎	一七九	四一・三
腎臟炎及ブライト氏	一六二	三七・四
癌	一五二	三五・一

胃ノ疾患

一〇九

二五・一

心臟ノ器質的疾患

一〇三

二三・五

慢性氣管支炎

八八

二〇・三

外因ニ依ル死亡

八三

一九・一

腸結核

七一

一六・四

腹膜炎

六八

一五・七

微毒

五三

一二・二

其ノ他ノ結核病

三八

八・八

赤痢

三八

六・三

皮膚及運器疾患

三五

八・一

原因不詳

二六

六・〇

癩

四

〇・九

其ノ他

六六一

一五二・四

計

四、三三七

一、〇〇〇・〇

第三、寄生蟲

一三五

農村住民一七、六九八人ニ就キ、アンチホルミン、エーテル沈澱法ヲ用ヒテ寄生蟲卵糞便検査ヲ爲シタル成績左ノ如シ。

寄生蟲卵種別	蟲卵保有者實數	検査人員ニ對スル百分比
蛔 蟲	一二、三一五	六九・六
鞭 蟲	九、九四二	五六・二
十二指腸蟲	五、〇三六	二八・五
東洋毛様線蟲	六〇二	三・四
肝臟ヂストマ	一九〇	一・一
横川氏メタゴニムス	一一九	〇・七
肺臟ヂストマ	三三三	〇・二
蟻 蟲	七	〇・〇四
裂頭條蟲	三	〇・〇二
ヒメノレビスナ、	二	〇・〇一

即チ農民ノ寄生蟲ハ蛔蟲最モ多數ヲ占メ次ハ鞭蟲、十二指腸蟲ナリ吸蟲類、條蟲類ハ比較的少ナシ。

#### 第四、住 宅

農村住宅三、三二〇戸ニ就キ其ノ方向、構造、換氣採光、一人當リ建坪、宅地坪、疊數等ヲ調査シタル成績左ノ如シ。

##### 一、方 向

南向キニ建テラレタルモノ八五・五%純北向九・七%其ノ他ハ北東向キ三・二%北西向キ一・八%ナリ。

##### 二、構 造

一階建七八・三%二階建二一・五%ニシテ家根ハ純藁葺五〇・一%庇ノミ瓦葺ニテ他ハ藁葺ノモノ一一・五%瓦葺ハ二六・二%ナリ。

##### 三、換氣、採光

換氣採光共ニ佳良ナルモノ三一・五%同中等度ノモノ四六・三%不良ト認メラル、モノ二二・一%ナリ。本邦農村住宅ノ換氣ハ寧ロ過度ニ過キ寒冷ノ地方ニテハ爲メニ保温ヲ防ケラル。

##### 四、一人當リ平均建坪、宅地坪、疊數

農村家屋ノ建坪、宅地坪及疊數ヲ其ノ現住人口一人ニ付平均比例ヲ算出スルニ建坪ハ一人當リ五坪、宅地坪ハ一人當リ二二坪、疊數ハ一人平均四疊ナリ。

##### 五、汚水、雨水ノ排除狀況

本邦農村住宅ニ於ケル汚水雨水ノ排除ノ設備ハ頗ル不完全ニシテ施設トシテ見ルヘキモノナシ、汚水雨水

ノ排除ニ付農家自カラ何等カノ設備ヲ有スルモノハ約三割ニ過キス。

### 第五、主食物

本邦農村民ノ主食物ハ米麥ヲ主トス、二、一九五戸ニ付キ調査シタル成績左ノ如シ。

	戸數	總戸數ニ對スル百分比
米飯ヲ常用トスルモノ	五一八	二二・六%
麥飯ヲ常用トスルモノ	一五	〇・七%
米麥混合ヲ常用トスルモノ	一、六六二	七五・七%
計	二、一九五	一〇〇・〇%

日常ノ副食物ハ専ラ植物性食品ヲ主トシ動物性食品ハ極メテ稀ナリ。

### 第六、農村ノ飲水料

本邦農村ニ於ケル飲水料ハ井水ヲ普通トス内務省ノ直接調査ニ基ク九ヶ村ニ就キ其ノ飲水料水ノ水質検査ノ結果ニ依レハ其ノ四五・八%ハ化學的水質検査ニ合格セリ河水、泉水等ヲ飲水料ニ使用スルハ極メテ少數ナリ。

### 第七、其ノ他ノ衛生

以上ノ外本邦農村ニ於テ注意スヘキ事項トシテハ醫療機關ノ不備、飲食物ノ改善、衣服、住宅ノ改良、衛生思想ノ缺乏、各種保健施設ノ整備等ニシテ是等ハ本邦農村衛生上特ニ其ノ對策ヲ急務ト認メラル。

### 五、調査後ノ寄生蟲驅除

農村保健衛生實地調査ヲ施行シタル村ニ對シテハ其ノ調査成績ニ基キ各種ノ對策ヲ講スルハ勿論ナルモ先ツ急ヲ要スル寄生蟲豫防ニ對シ極力之カ驅除獎勵ヲ促スト共ニ一面ニ於テハ農民ノ知識向上ニ資スルノ目的ヲ以テ宣傳刊行物ノ配布、講習會、講演會等ノ開催ヲ獎勵セリ。

驅蟲藥トシテハ數年來十二指腸蟲ニ對シテハヘノボデー油ノ使用ヲ獎勵シタルモ近時四鹽化炭素ノ効力確實ナルヲ知ルニ及ヒ之カ併用ヲ賞用ス、是レ四鹽化炭素ハ副作用少ナク且ツ價廉ナルト共ニ十二指腸蟲ニ對スル効力ヘノボデー油ニ優ルニ依ル然ルニ蛔蟲ニ對スル藥効率ハヘノボデー油ニ劣ルヲ以テ兩者混合感染ノ場合ニハ寧ロヘノボデー油ノ使用又ハ之カ併用ヲ有利ナリトス。

内務省ノ實施セル農村調査後ノ村民驅蟲ニ際シテハ未タ四鹽化炭素ノ知レサル時ナリシヲ以テ多クヘノボデー油ヲ使用セリ最近一九二三年末ヨリ一九二四年ニ亘リ是等驅蟲藥ノ効力並ニ十二指腸蟲再感染ノ實地調査ヲ埼玉ノ一農村ニ就キ嚴密ナル調査ヲ行ヒタリ。

蛔蟲驅除ニ付テハヘノボデー油サントニン、海人草等ヲ使用セリ。

# 海港檢疫

防疫官 飯村 保三

四面環海ノ國ニ於テハ國境ハ即チ海港ニシテ此處ニ於テ外來ノ病毒ヲ發見スルニアラサレハ到底國內ノ安全ヲ所期スル能ハス、就中隣接諸國ニ於テ常ニ各種ノ傳染病發生シ、而シテソレカ出港地乃至出港地ノ近傍ニ於テ嚴密周到ニ處置セラレサル場合アリトセンカ、其ノ危險ハ一層甚シカルヘシ、本邦ノ地位地勢ハ一葦ノ水ヲ以テ行政施設其ノ他百般ノ事情ヲ異ニスル諸外國ト相接スル關係上ヨリスルモ海港ニ於ケル檢疫ノ特ニ嚴重ヲ極メサルヘカラサル固ヨリ其ノ故ナシトセス。

## 一、海港檢疫ノ沿革

本邦ニ於ケル海港檢疫ハ海外ヨリ「コレラ」患者ヲ持チ來スコト頻々タルヨリ之カ豫防ノ必要ニ迫ラレ施行シタルニ始マル即チ明治十二年（一八七九年）七月太官達第二十八號海港虎列刺病豫防規則ハ先ツ制定セラレタリ當時ノ規則ニ依レハ海外ヨリ或ハ日本内各港ヨリ他港ニ來ル船舶ニ對スル檢疫方法ヲ定メ全二十二條ヨリ成リ信號其ノ他ニ至ル迄詳細規定シアリ。

明治十五年（一八八二年）六月更ニ太政官布告ヲ以テ虎列刺流行地方ヨリ來ル船舶検査規則ヲ定メ檢疫方法ヲ規定シタリ。  
明治二十六年（一八九三年）六月勅令第五十六號ヲ以テ前記（明治十五年）船舶検査規則ヲ「ベスト」流行ニ適用スルコトヲ規定セラレ、清國沿海諸港及香港ヲ發シ又ハ之ヲ經由シテ來ル船舶ニ對シ長崎、神戸、横濱、下ノ關港等ニ於テ檢疫ヲ行ヒタリ。

以上ノ虎列刺及「ベスト」ニ對スルノミノ檢疫方法ニテハ不充分ナルノミナラス、當時ノ檢疫ハ海外流行ノ際ニ限リ之ヲ行ヒ居ルヲ以テ檢疫開始前虎列刺ノ侵入ヲ受ケ大流行ヲ來シタル等ノ苦シキ經驗ノ結果常時海港檢疫ヲ爲スノ必要ヲ認メ（明治三十二年（一八九九年）一月現行ノ海港檢疫法ハ制定發布セラレタリ、而シテ其ノ後二回ノ一部改正アリ現在ニ至ル。

## 二、現行法制ノ概要

檢疫ヲ施行スル海港及傳染病ノ種類ハ内務大臣之ヲ指定スルコトトナリ居レルカ現在指定セラレタル海港左ノ如シ。

大 阪 港  
横 濱 港  
神 戶 港  
長 崎 港

門司港  
敦賀港  
下關港  
若松港  
三池港  
口ノ津港

右ノ内下ノ關港及若松港ニ來ル船舶ハ門司港ノ檢疫所ノ檢疫ヲ受クルモノトス。

以上ノ外臨時ニ檢疫ヲ施行スルトキハ告示ヲ以テ之ヲ指定スヘク現在ニ於テ指定セラレ居ルモノ左ノ五ヶ所トス。

鹿兒島港  
唐津港  
四日市港  
名古屋港  
函館港

檢疫ヲ施行スル傳染病ハ左ノ如ク定メラル。

「コレラ」、痘瘡、猩紅熱、「ペスト」、黃熱

而シテ傳染病ノ病原體保有者ハ之ヲ傳染病患者ト同様ニ取扱フ(大正十一年改正)

海外諸港ヨリ檢疫ヲ施行スル港ニ來ル船舶ハ其ノ入港前ニ於テ此法律ニ依リ檢疫ヲ受ケ許可證ヲ得タル後ニアラサレハ、其ノ港ニ入港シ、陸地又ハ他船ト交通シ、或ハ船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ケヲ爲スコトヲ得サルモ何等カ港外ニ於テ檢疫ヲ受ケ雖キ事由アル場合ハ檢疫官吏ノ指示シタル場所ニ於テ檢疫ヲ受クルコトヲ得ヘシ。

右檢疫ヲ受ケタル船舶ニシテ日本内地間ノ他ノ港ニ來ル場合ハ明告書其ノ他ヲ査閲シテ直ニ許可證ヲ交付スルコトヲ得ヘシ。

船舶入港後ニ於テ傳染病患者、死者發生シ又ハ病毒汚染ノ疑アルコトヲ發見シタル等ノ場合ニ於テハ檢疫官吏ノ指示ニ從ヒ更ニ檢疫ヲ受ケテ許可證ヲ得ルニアラサレハ他港ニ進航シ又ハ陸地、他船トノ交通、船客乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ケ等ヲ爲スコトヲ得ス船長、乗組員及船客ハ檢疫官吏ノ尋問ニ對シテ之ニ應答シ且ツ船長、乗組員ハ檢疫官吏ノ請求ニ應シテ明告書ヲ差出スノ義務アリ、又檢疫官吏ノ請求アルトキハ航海日誌ヲ示シ又ハ船内各部ヲ開キ査査ヲ受ケサルヘカラス。

海外ヨリ檢疫ヲ施行スル海港ニ來ル船舶ニシテ左記ニ列記スルニ該當スルモノハ其ノ入港前ヨリ許可證ヲ得ル迄檢疫信號ヲ掲クルヲ要ス。

- 一、現ニ傳染病患者又ハ死者アルモノ
- 二、航海中傳染病患者又ハ死者アリタルモノ
- 三、傳染病流行地ヲ發シ又ハ之ヲ經由シ或ハ傳染病毒ニ汚染シタル船舶ト交通シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シ若ハ汚染ノ疑アルモノ

以上ハ檢疫ヲ施行スル海港ニ來ル場合ノ檢疫方法ナルカ、本邦海港ニシテ檢疫ヲ施行セサル港ニ來ル場合ニ於テ前記ノ三條件ニ當ルモノ又ハ入港後傳染病患者又ハ死者發生シタル等ノ場合ニハ同シク檢疫信號ヲ掲ケ其ノ地ノ警察官吏ニ届出ツルヲ要ス。

檢疫官吏ノ權能トシテ左記ノ處分ヲ爲スコトヲ得ヘシ。

- 一、現ニ傳染病患者、死者アルモノハ停船ヲ命シテ患者死者又ハ物件ノ處分ヲ指示シ、船舶其ノ他ノ消毒方法又ハ鼠族、昆虫等ノ驅除ヲ施行シ、且必要アルトキハ一定期間船客、乗組員ヲ檢疫所又ハ船中ニ停留スルコト。

右ノ停留期間ハ消毒又ハ鼠族、昆虫等ノ驅除ヲ了リタル時ヨリ起算シテ「ペスト」ハ十日以内「コレラ」黃熱ハ五日以内ト規定セラル。

- 二、航海中傳染病患者、死者アルモノ、又ハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ其ノ地ヲ經由シ其ノ他傳染病毒ニ汚染シタル疑アルトキ、及停船中患者、死者ヲ出シ又ハ病毒ニ汚染シタル疑アルトキハ前號同様ノ處分ヲ

爲スコトヲ得ヘシ。

- 三、傳染病ノ疑アル患者アルトキ又ハ傳染病ノ病原検査上必要アルトキニ限り二日ヨリ多カラサル期間停船ヲ命スルコトヲ得ヘシ。

- 四、以上ノ外發航地又ハ寄港地ノ狀況又ハ船舶ノ狀態ニ依リ消毒方法又ハ鼠族、昆虫等ノ驅除ヲ施行スルコトヲ得ヘシ。

而シテ右ニ依リ船舶、物件ノ消毒又ハ鼠族昆虫等ノ驅除ヲ行フ場合ニハ船長其ノ他ノ乗組員ハ之ヲ補助スルノ義務アリ。

海外ノ港ニ於テ消毒處分ヲ受ケタルモノト雖航海中傳染病患者、死者アリ、又ハ傳染病流行地ヲ發シ、或ハ之ヲ經由シ、其ノ他病毒汚染ノ疑アルトキハ右消毒後二週間以上ヲ經過セサル場合ハ消毒又ハ鼠族、昆虫等ノ驅除ヲ行フコトヲ得ヘシ。

船舶ヲ他ノ港ニ回航セシムルトキ又ハ特ニ乗船調査ヲ必要トスルトキ及朝鮮、臺灣、樺太、關東州其ノ他内務大臣ノ指定スル海外諸港ヨリ來ル船舶ニ對シ乗込檢疫ヲ行フ等ノ場合ハ檢疫官吏ハ無償ニテ之ニ乗船スルコトヲ得ヘシ。

鼠族昆虫等ノ驅除ニ關シテハ内務大臣ノ指定シタル地方ヨリ本邦内ノ別ニ定メラレタル海港ニ來ル船舶ニ對シテハ鼠族昆虫等ノ驅除ヲ行フモノトス。

此法律ノ執行ヲ拒ミ又ハ妨害シタル者等ハ五百圓以下ノ罰金ニ處セラレ、又許可證ヲ受ケスシテ入港シ、檢疫ヲ施行セサル港ニ來リタル船舶カ其ノ義務ヲ行ハサル場合及停船其ノ他ノ命令ニ違背シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處セラルヘシ。

内外國ノ軍艦ニシテ病毒散蔓ヲ防止スル爲規定セラレタル該法律中ノ事項ニ該當スルモノハ檢疫官吏ニ於テ陸地、他船トノ交通又ハ乗組員ノ上陸、物件ノ陸揚ケヲ制限スルコトヲ得ヘシ。

徴收スヘキ消毒ノ費用ハ海港檢疫法施行規則中ニ規定シアリ、又檢疫所ニ移轉セシメタル者ノ食費及患者死者ニ對スル費用、鼠族、昆虫等ノ驅除費ノ徴收額等ハ地方長官ニ於テ之ヲ定ムルコトナリ居レリ。

總テ此等ノ檢疫法令ハ總噸數二千噸未滿又ハ積石數二百石未滿ノ船舶ニ對シテハ傳染病流行地ヲ發シ又ハ之ヲ經由シテ來ル場合ノ外ハ適用セラルルコトナシ。

### 二、檢疫所ノ設備

常設ノ各檢疫所ハ當該港ヲ支配スル稅關港務部ニ屬シ港務官及醫官以下必要ナル職員ヲ置キ檢疫見張所等ノ外專屬ノ消毒所、隔離所、病院及火葬場等ノ設備ヲ有シ居ルモ大阪港ニ限り地理ノ關係上消毒所、隔離所等ハ必要ノ場合神戸港附屬ノモノヲ使用ス、臨時海港檢疫所ニ於テモ醫官其ノ他必要ナル職員ヲ常設シ居ルモ隔離所附屬病院等ハ現在ニ於テハ函館港ノ外之カ設備ヲ缺ク。

### 四、檢疫ノ施行

檢疫所ニ於テハ港外指定ノ場所ニ停船セシメテ檢疫職員出張臨檢シテ檢疫ヲ施行シ居レルカ朝鮮、臺灣等ヨリ來リタルモノニシテ現ニ又ハ航海中傳染病患者、死者ナキ等ノ場合ハ入港後ニ於テ檢疫ヲ施行スルコトアリ。

檢疫官吏ヲ乘込マシテ檢疫ヲ施行シ居ルハ現在ニ於テハ朝鮮、臺灣及上海ト内地間トノ定期客船ニ限リテ之ヲ施行シ居レリ。

以上ノ各檢疫所ニ於テ檢疫ヲ施行シタル船舶ニ關シ近キ數年間ノ成績ヲ左ニ摘記スヘシ。

年次	檢疫シタル船舶數	消毒施行船舶數	停船ヲ命シタル船舶數	傳染病患者發見數
大正十年(一九二一年)	一一、五五六	一七一	一六九	一一
大正十一年(一九二二年)	一一、五九四	二〇七	二〇六	一六
大正十二年(一九二三年)	一一、七三四	二五三	二三三	二九

海外隣接地ニ危險ナル傳染病發生流行シ其ノ狀況カ日本内地ニ病毒ヲ齎スヘキ危險アル程度ニ達シタルトキハ内務大臣ハ之ヲ傳染病流行地ト指定シ豫防上必要ナル手段ヲ爲ス殊ニ其ノ傳染病カ「コレラ」ナル場合ハ或範圍ノ船客乗組員ニ對シテ糞便検査ヲ行ヒ居レリ。其ノ方法ハ各人ニ着港前ヨリ糞便ノ提出ヲ要求シ、其ノ提出セラレタル糞便ヲ一々「ペフトン」水培養ヲ行ヒ顯微鏡検査ニ附シ、更ニ「コレラ」ニ疑ハシキ「ビブリオ」ヲ發見シタルトキハ更メテ各種ノ培養並血清學的試験ヲ行フモノニシテ從來ノ成績ニ依レハ相當數ノ患者及

病原體保有者ヲ發見シ居レリ。本作業ノ一例トシテ門司檢疫所ノ成績ヲ記スヘシ。

検査使數	發見コレラ患者數	發見コレラ保菌者數
大正八年(自七月七日 至十二月廿四日)	一一〇、六三七	一一
大正九年(自八月十三日 至十月廿九日)	五九、六八七	五
大正十年(自八月十五日 至十月廿九日)	八、〇九一	二
大正十一年(自八月一日 至十月廿五日)	一一、五七八	一
計	一九九、九九三	一九
		一五

糞便検査ノ成績ニ關シテハ一見其ノ勞力的犠牲ニ對シテ得ルトコロノ數少ナキ如キモ由來流行源トシテハ必スシモ病毒ノ多數ヲ要セス、一人ノ病原體保有者ハ隱約ノ間ニ病毒ヲ散蔓シ大流行ヲ來スコトヲ想ヘハ其効果決シテ輕視スヘキモノニアラス。

五、鼠族昆虫等ノ驅除

「ペスト」患者發生シ又ハ「ペスト」流行地ト指定シタル地方ヨリ來ル船舶ニ對スル場合ノ外常ニ「ペスト」病毒ノ危険多キ地ヨリ來ル船舶ニ對シテハ凡三ヶ月ニ一回ノ程度ニ於テ鼠族昆虫等ノ驅除ヲ施行シ居レリ、現在ニ於テハ横濱、神戸、大阪、長崎、門司、四日市、名古屋ノ各港ニ於テ孟買、蘭貢、「ジャワ」、「カルカッタ」等ヨリ來航スル船舶ニ對シテ之ヲ行ヒ居レリ。

驅除ノ實行ニハ特別ニ構造シタル瓦斯發生船ヲ前記各港ニ一隻乃至三隻ヲ備フ、其ノ發生瓦斯ノ成分左ノ如シ。

酸化炭素瓦斯 (CO)	3.3—6.6%
炭酸瓦斯 (CO <sub>2</sub> )	17.0—19.0%
窒素瓦斯 (N)	76.4—77.7%

以上ノ成分ヲ保持スル爲作業中ニ於テモ時々化學的試験ヲ行ヒ常ニ叙上ノ組成ヲ有スル瓦斯ヲ發生セシムル如ク爲シ居ルト共ニ、此等瓦斯使用時中ニ於ケル從事員其ノ他ニ對スル危害ヲ豫防スヘク最善ノ注意ヲ爲シツツアリ。

又場合ニ依リ硫黄燻蒸ニ依リ亞硫酸瓦斯ヲ發生セシメテ驅除ヲ行フ。

以上ノ瓦斯燻蒸法ニ依リ之ヲ行ヒタル船舶數等ノ近年ノ成績ヲ摘記スヘシ。

各檢疫所ニ於ケル船舶鼠族驅除成績

年次	横濱		大阪		神戸		門司		長崎		四日市		名古屋		計
	船數	鼠數	船數	鼠數	船數	鼠數	船數	鼠數	船數	鼠數	船數	鼠數	船數	鼠數	
大正十年(一九二一年)	?	?	四	三三	二七九	六五三	一〇二	五四九	七	二五	四	二九	〇	〇	五〇九三、六七七
大正十一年(一九二二年)	?	?	四	一八五	一三三	四六六	一三三	九七	三六	三四	七	〇	〇	〇	三三三、八七四

大正	十一年	四	二九	二四	二四	六	五四	二七	六	三	七	九	五	〇	〇	〇	二九	六
大正	十二年	一五	三	三	三	六	一七	一〇	一五	四	一四	二	〇	三	〇	〇	二六	三
	(一九二三年)																	
	(一九二四年)																	

(横濱ノ？ノ分ハ記録焼失ニ依ル)大正十三年(一九二四年)十二月稿

# 急性傳染病

防疫官 飯村保三

草昧ノ時代ニ在リテハ各種疫病ノ如キ其ノ害毒ノ及ホス範圍限局セラルルモ人文交通ノ發達等ハ復タ昔日ノ安キヲ望ムヘガラサルニ至ルハ必然ノ趨勢ナリ。日本ニ於テモ古キ時代ハ暫ラク問ハス、近世ニ於ケル此等ノ關係ハ歴然指摘シ得ヘキモノアリ、就中「コレラ」「ベスト」ノ如キ危険多キ傳染病ハ全ク近キ百、以來ニ於テ始メテ之ヲ見ルニ至リタルモノニシテ、近時豫防方法ノ進歩ハ幸ニ大ナル慘害ヲ來サシメサルモ、猶未タ全ク其ノ脅威ヨリ免ルル能ハス。此等ハ爾他衛生施設ノ完整ト同時ニ又國際間ニ於ケル相互ノ信義アル協同的豫防手段ニ依リ之カ撲滅ヲ謀リ以テ各自ノ安全ト幸福ヲ庶幾セサルヘカラス、之獨リ衛生當事者トシテノ責務ニ止マラス實ニ亦人道上ノ至高ナル奉仕ニ屬ス。

## 一、傳染病豫防規定ノ沿革

本邦ニ於ケル傳染病豫防ニ關スル規定ハ明治八年(一八七五年)ニ始マリ爾來幾多ノ變遷ヲ經テ現行ノ傳染病豫防法ニ至レリ。